

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 4 1	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
A detailed analysis of musculoskeletal disorder risk factors among Japanese nurses. 日本の看護師における筋骨格系障害の危険因子の詳細な分析	
執筆者	
Smith DR, Mihashi M, Adachi Y, Koga H, Ishitake T.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Safety Res. 2006;37(2):195-200.	
キーワード	
筋骨格系障害、看護師、危険因子、飲酒、喫煙、子供、月経、ストレス	
要 旨	
<p>筋骨格系障害は主要な労働衛生上の問題であるが、日本を含むアジアの看護師における筋骨格系障害の疫学研究はほとんどなかった。そこで、標準化ノルディック質問票の日本語版による調査を大規模な教育病院に勤務する 1,162 名の看護師を対象に実施した。筋骨格系障害の評価は頸部・肩部・背部・腰部に分けて調べた。</p> <p>844 名分 (回答率 72.6%) の調査票を解析対象とした。過去 12 ヶ月間に身体の何れかの部位に筋骨格系障害を起こしていた頻度は 85.5%であった。部位別の頻度は、肩部 (71.9%)、腰部 (71.3%)、頸部 (54.7%)、背部 (33.9%) の順であった。飲酒 (オッズ比 1.87)、喫煙 (オッズ比 2.45)、子供がいること (オッズ比 2.53) は有意な危険因子であった。職場での危険因子としては、手で患者の移動を行うことおよび肉体労働を行うことが有意であった。月経前緊張症候群があると腰部 (オッズ比 1.66) および背部 (オッズ比 1.94) の障害が多くみられた。精神的緊張によっても頸部 (オッズ比 1.53) および肩部 (オッズ比 2.07) の障害がみられた。</p> <p>筋骨格系障害の危険因子は複雑であり、看護師の手による作業を避けるのみの対策では筋骨格系障害を十分に減少させることが困難であることをこの結果は示唆している。従って、筋骨格系障害の原因を緩和するためには、従来の古典的危険因子の回避に加えて、仕事に対する満足感、業務の構成、職業上のストレスなどについても考慮する必要がある。</p>	